

# 保育の或る一日

岡山女子師範附屬幼稚園

岡

政

保育は幼児の生活を満足せしめ、また適當に之れを指導して行くべきでありますから、學校教育の如く、毎日一律に保育事項を定め方案を立てる譯には行きませぬ。日に月に發達し、心機の轉換また著しき幼児に對する保育の方法は、決して固定的のものでなく、日々新たな觀察と考慮のもとに保育の目的を達すべく、時々立案せられなければなりません。夫れ故茲に述べる保育の一日もたい實際の一端を示すに過ぎませぬが、これによつて幾分にも、當園保育の方針を御了察下さるならば此上なき本懐と存じます。幸、過般大阪市大寶幼稚園の尾崎保姆突然御來園、保育狀況を親しく御覽下され色々御批評をも願つたのでありますから、特に其日を選び日誌を其儘記述して、大方諸賢の御高評と御教示とを仰ぎ度と考へます次第であります。

(幼兒數七十五保姆二)

登園尾崎様と保育上の意見を交換する内に時は九

時半となつた、狭き室内乍ら幼児の遊ぶ聲が一向に聞えぬ、大多數は庭に出て居たのであつた、それから尾崎様と何かと話しながら庭に行つて見ると何となく幼児が平素とは數少なく見えたのでよく見ると、十數名は藤柵の下で一つの團體となつて飯事に熱中の有様で、掃除をする者があるかと思へば子守姿の兒もあり又料理に餘念もない兒もありであつた、其あたりには時節柄石蹴遊の群が幾組もあつた、自ら定まれる自己の番の來るのを待つて居る、其他三十名許は庭の彼方の十六坪許の砂場で何事か頻りと忙はしさうにやつてゐる、其場に行つた自分は幼兒の身丈よりも高い四個の砂山の出來て居るのを見て驚かすには居られなかつたのである、そして賢顔に其高低を批評した所「先生此の山は皆一つしよです共同で砂場公園を作るのです」と年長兒の説明に今更大赤面、そして子供等は各々の山に名を附けて、大山、オ宮山、幼稚園山、赤チャン山等と稱へて居た、幼兒相當の判斷をなして寧想像の中にも論理の

見解を加へて居るよと思つた、活動には差があつて男兒は主として山を築き女兒は主として畑を作つて居た、自ら性狀によつて分業的でしかも大團體となり個人としても共同としても一生懸命に働いて居る状態を見實にこれ丈は日頃の方針になつて居て誠に心持よく感ぜられた、此時他の一名の保母は十名許の幼兒と室内で昨日より引續きの萬國國旗カルタの製作中で全く庭の賑はしさを他所にして頗る眞面目にしかも非常に興味もて「出来てかはいたらいつしよにして持つて遊ばう」等と語り乍らなして居た、丁度其時奥の室で唱歌の聲がしたので若しやと行つて見ると、果して樂器好きの一女兒が數名の女兒と共に唱歌中であつた、自分の姿を見るや「先生ひいて下さい」と頻りにねだる願ひのまゝにする内何所からともなく十名許の幼兒がよつて來た、此時は最早砂場公園もカルタ製作も出來上り頃で適當の時と思ひ自分はあたりの幼兒にハンカチ取遊をなさん事を告げた、するご例によつて友から友に賛成を求めたものか、喜び飛び來た者何れも「よせて下さい」と自分の材料提出は大々の歓迎をうけ遂に全園兒殘らず集つて仕舞つた、遊戯はあれよこれよと相互提

出で種々重ねてなし面白くてついで一時間餘も續けた、群集中にある幼兒の心は興奮其高潮に達したのか、失禮にも尾崎様へ對し遊戯の仲間入をさへ願ふ者も出來た、其の内食事の準備をして居た幼兒が時を知らせて來たので驚き見ると正午眞近くなつて居たのである、吾等相互はあまりに面白くて遊び過した等物語り乍食堂に入つたのである、折柄窓側はクローバーの連鎖をもつて飾つてあつた、是れは三幼兒が庭の雜草中のクローバーを採取して作つたものを裝飾の意味で吊して居たのであつたが色の關係で人目にたゞぬのであつた。

誠にかゝる場合其外形よりも其心情其熱心の程度に於いて又と得難き其行爲を幼兒より訴ふる迄心附かなかつたは自分とてあまりに沒常識の極であつたことつくゞ後悔の外なかつたのである、そして一日の内最も樂しとする食事の團樂は約三十分で了へ引續別室で食後談話に腹鼓打つて以後は全く自發活動となし特筆すべき程の事もなくて平々凡々裡にいつしか退園時一時半が來たのであつた。

終